

# 研究主題 知識・技能の活用を図る学習活動に関する 指導展開例の作成

小学校4教科 (国)・社・算・理)  
中学校6教科 (国)・社・数・理・英・家)

【研究総括担当者】 佐藤 亥 壱 齊藤 義 宏  
【国語科研究担当】 阿部 真由子 堀切 茂 行  
熊谷 和 浩

## 1 はじめに

学習指導要領改訂後、「活用」というキーワードが取り上げられていますが、活用を意識した授業とはどういうものなのでしょうか。

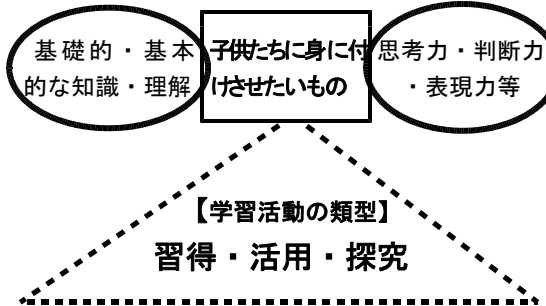
本項では、活用を図る学習活動の考え方や指導方法等を追いながら、現在当センターが作成している指導展開例について紹介します。

## 2 「活用」をこう捉える！

### (1) 「活用」は学習活動の類型の一つ

今回の学習指導要領の改訂では、思考力等を育成するための手立てとして、「習得・活用・探究」という学習活動と学習の流れが規定されました。この規定では、児童生徒に身に付けさせたいものは「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」であることを前提とした上で、「活用」はあくまでも知識及び技能を活用する（考えながら使う）という学習活動の類型の一つとして示されています。表現を変えれば、活用は目的ではなく、課題解決する過程において、思考力等の力を身に付けさせるための方法・手段になります。

#### 習得・活用・探究についての考え方（イメージ図）



### (2) 「活用」は指導方法を見直すチャンス

課題を解決するために知識・技能を活用する場合には、ある単一の知識や技能だけを用いても課題を解決するには至りません。児童生徒が、観察・実験やレポートの作成、論述といった学習活動に取り組む際に、自らが既に持ち合わせている知識・技能を使える状態にするとともに、周りの人や書物といった資源に近づき実際に利用する必要があります。このような学習活動の質が、学習成果に影響を与えると考えられます。

「活用」という学習活動について、「今までやってきている」という先生もいれば、まったく新しい課題と受け止めている先生もいると思います。いずれにしても、授業とはいったいなんなのかということを確認する機会であることは間違いありません。私たち教師にとって自分たちの指導方法を見直すチャンスと捉えていきましょう。

### (3) 探究活動をヒントに指導方法を改善する

では、具体的に指導方法をどのように見直して、改善を図ればよいのか。ここでは、教科指導の最終目標である「探究的に学び続けようとする指導」という側面から考えてみます。探究活動については、学習指導要領解説総合的な学習の時間編でプロセスが示されているように、課題を見付けることに始まり、その問題の解決のためにどのような情報が必要なのか、それはどうやれば収集できるのかについても考えたり、判断しなければならなくなります。さらに、

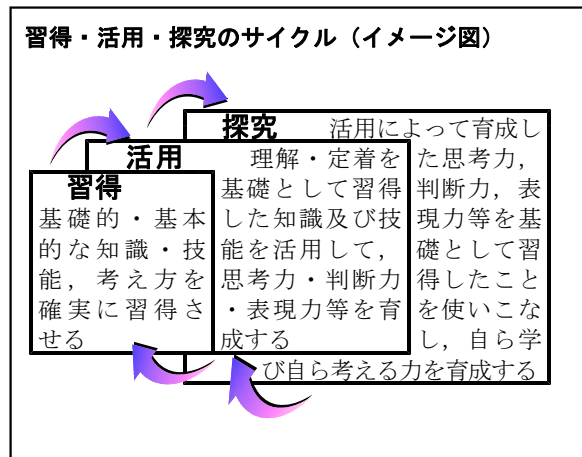
考えをどのようにまとめ、表現すればよいのかについても考え、他者との情報交換を効果的にすることも必要になります。このプロセスに指導方法の改善へのヒントがあります。前述したように、思考力等を育成するための手立てとして、「習得・活用・探究」という学習活動と学習の流れが規定されたことを考えれば、当然、探究活動のプロセスが活用を図る学習活動にも適用され、接続されていくことが望ましいと考えられます。但し、前記したプロセスの全てを備えることを想定する必要はありません。単元を見渡し、「なんのために、どの時間のどこで、なにを使って、どのように知識・技能の活用を図る学習活動をするのか」「その結果、児童生徒はどのようになればよいのか」ということを見直しの視点としたうえで、探究活動のプロセスの個々の学習活動を効果的に位置付けていくことが改善につながります。

(4)

授業構想の留意点は・・・

「習得・活用・探究」は学習活動の類型を示したものであり、一体のものとして捉えることが大切です。三者の時間的、量的、内容的な枠を決めることが大事なのではなく、バランスよく取り組むことが優先されなければなりません。このことは、単元構想の必要性の根拠となります。児童生徒の学習は、教育課程に基づく指導計画に沿って一時間一時間の授業によって進展していきます。各時間や各単元の指導内容は系統や発展のある計画の基に位置付けられていますから、各時間の指導は、常に新しいものを学ぶのではなく、何らかの意味でこれまでに学習したことの続きや発展として学ぶこととなります。つまり、習得した知識・技能をつなげ活用していくこととなります。このことを児童生徒に意識させ、活用のねらい、対象、方法、及び活用することによって生み出される良さなどを強調し、児童生徒が今後、知識・技能を意欲的に活用していこうとする態度を育てていくことが大切です。その意味からも振り返りの場の設定と意義を大事にしたいものです。また、習得・活用・探究を一方通行の過程として捉えたり

段階的に捉えたりするのではなく、活用することで確かな習得がなされたり、探究的な活動の中で習得と活用が繰り返されたり等、様々なプロセスがあることを確認する必要があります。例えば、活用することにより「前にやった勉強はそういうことだったのか」という、習得すべき知識がより深く理解されるということもあります。このようなサイクルを指導計画に意図的にのせていきます。



(5)

言語活動を踏まえる

実際の授業の指導にあたっては、知識・技能の活用を図る学習活動は、言語によって行われるものであることから、全教科にわたって、充実が図られた言語活動を踏まえて取り組むことが重要です。特に、言語活動としての「記録、要約、説明、論述の能力」が問われており、中核となる学習活動としては、「説明する」ことが重要となります。「説明する」ことができるということは、対象となる学習内容を理解し、それについて考え、その考えを基に表現できるということです。ここに、論述する能力が育成されるものと考えられ、今回の学習指導要領の改訂で充実すべき重要項目の第一に、「言語活動の充実」が挙げられている根拠と捉えることができます。詳しくは、「中央教育審議会（答申）（平成20年1月27日、pp. 53～54）を参考として下さい。学習指導要領で求められている「言語活動の充実」にかかわる内容が掲載されています。

### 3 指導展開例について

指導展開例では、前述した「活用」のとらえに基づき、各教科の特徴を踏まえ、目標・教材分析、単元開発、授業設計等に「知識・技能の活用を図る学習活動」という視点での分析を提示し、漫然と授業を概観する分析から、目的を明確にした授業分析へ質を高めていく提案をしていくこととします。

#### ◆ 指導展開例の構成

指導展開例においては、下記の項目を設定し、構成しています。

<b>I 知識・技能の活用を図る学習活動の考え方</b>
1 〇〇教科における「活用」の基本的なとらえ
2 「活用」を意識した授業を展開するときの留意点
<b>II 単元及び単位時間の構想</b>
・ なんのために「活用」を図るのか
・ なにで「活用」を図るのか
・ どのように「活用」をはかるのか
・ どのようになればよいか
・ どのようにつながったか
<b>III 指導展開例（単元構想表・単位時間展開）</b>

### 4 国語科における「活用」の考え方

国語科においては、言語の教育として、実生活で生きてはたらき、各教科の学習の基盤ともなる能力を身に付けさせることを重視しています。本研究では、以下のような学習活動を、「活用」を意識した学習活動ととらえます。

<b>1 「活用」の基本的なとらえ</b>
国語科における、「活用」を意識した学習活動
(1) 既習内容を使いながら、自分の考えをまとめ表現する学習活動
(2) 互いに考えを交流し、評価し合う学習活動
(3) 物事を関連付けたり、整理したりしながら課題に取り組む学習活動
(4) 様々な文章や本に接しながら、身に付けた言語能力を発揮していく学習活動
<b>2 「活用」を意識した授業を展開するときの留意点</b>
○ 活動の基となる知識・技能は何か、それが児童生徒にどれくらい身に付いているかを把握する。
○ 指導要領の(1)に示されている指導事項を、(2)に示されている言語活動例をとおして指導する。
○ 学習意欲を引き出し、主体的に学習に取り組めるようにする。

### 5 国語科における指導展開例の実際


#### (1) 単元構想

ねらいを絞り、授業の流れについて要点を簡潔に記述しています。活用する基礎的・基本的事項も提示しています。これは、授業者が学習者のレディネスを意識して授業の準備を行えるようにというものです。

ここで示す指導展開例は、中学校第1学年読むこと単元「自分を見つめる『少年の日の思い出』」のものです。この単元は、各学校の研究授業等で取り上げられることが多いのですが、詳細な読解指導を行っている指導事例が多数を占めています。そのような指導では、教師の発問に生徒が答えることだけで授業が進むといった展開になりがちでした。

ここでは、「少年の日の思い出」を様々な角度から生徒が読み取っていけるように、「情景描写を把握する」、「人物像の比較をする」、「行為を分析する」といった言語活動が行われるような授業を構想しました。

#### 単元構想表

中学校 国語科 第1学年 「読むこと」 自分を見つめる『少年の日の思い出』 (光村燾著 1年P.153~P.169)		
<b>1 本単元における指導のねらい</b>		
・ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること「読むこと ウ」 ・ 表現の特徴について、自分の考えを持つこと「読むこと エ」		
<b>2 本単元における活用を意識した授業の流れ</b>		
本単元では、1年生の文学的文章教材「表むら帽子」「大人になれなかった弟たちに……」で学習した、情景や人物像等の読み取りの力を活用して読んでいきます。 単元を通して、「なぜ、ちやうを粉々につぶしてしまったのか。」という追求課題を設定し、それを解決するために、様々な角度から各時間の学習を行います。		
単元の流れ(全6時間)	内 容	何をを用いるか
1. 第一部「現在」の情景描写の把握 2時間	1 全文を通読し、単元全体を通して追究する課題として、「なぜ、ちやうを粉々につぶしてしまったのか。」を設定する。 2 第二部「少年時代」で語られる内容が暗示されている情景描写を、第一部「現在」から探す。 (展開案)	・ 場面毎の情景の読み取り (1年「表むら帽子」) ・ 作品の中の情景描写が、その場面の雰囲気や登場人物の気持ち等を伝えていること (1年「大人になれなかった弟たちに……」)
2. エーミールと「僕」の人物像の比較 1時間	3 エーミールと「僕」の人物像を把握し、両者を比較する。 ・ 両者を比較することで、事件が起こった遠因を考える。 (展開案)	・ 人物像の読み取り (1年「大人になれなかった弟たちに……」)
3. 2つの立場から「僕」の行為を読む 3時間	4 「僕」の犯した行為を弁護する立場で分析する。 5 「僕」の犯した行為を批判する立場で分析する。 6 「なぜ、ちやうを粉々につぶしてしまったのか。」について、「僕」の立場になって作文にまとめる。	・ 人物の行動の読み取り(してはいけない行為、過去の告白) (1年「大人になれなかった弟たちに……」)
		
場面の状況や人物の行動の把握の仕方を今後の文学的文章の読解に生かす。		

## (2) 単位時間の構想

単位時間構想表には、4つの「活用を意識した学習活動」の中のどの学習活動を位置付けたのかを示しています。また、本時における活用の留意点を示し、授業者がポイントをつかみやすいようにしています。

本展開案は、教師の発問にだけ頼る授業を脱却して、生徒の言語活動を充実させることを念頭に置き作成しました。それぞれの生徒が、登場人物の人物像を表にまとめる活動をおこない、それを元にして、学級全体で交流する展開です。生徒が自らの力で教材文を読み取っていく時、学習意欲も高まるであろうと考えます。活用にかかわっては、既習の教材で学習したことを本単元の学習で活用することを意識しています。そのことで、生徒は小説の読み方の共通するコツを習得することになります。つまり、習得と活用は往還の関係にあります。

### 単位時間の指導展開例（学習活動と活用場面等）

#### 4 エーメールと「僕」の人物像を比較する展開案（3/6）

【本時のねらい】

エーメールと「僕」の人物像を把握し、その相違点について自分の考えを持つ。

段階	主な学習活動	留意事項
導 入 5 分	1 本時の課題を確認して、学習内容の見通しをもつ。  エーメールと「僕」の人物像を比較しよう	・「大人になれなかった弟たち……」で行った人物像を把握する学習を想起する。
展 開  40 分	2 「僕」から見たエーメールの人物像、「僕」の人物像が描かれている表現のそれぞれを探し、表にまとめる。  【エーメール】 ・非の打ちどころがないという悪徳 ・子供としては二倍も気味悪い性質 ・あらゆる点で模範少年  等  【僕】 ・ひどく心を打ちこんでしまい ・ほかのことはすっかりすっぼかして ・自分の幼稚な設備を自慢することなんかできなかった  等	・回想場面を黙読し、それぞれの人物像について表にまとめさせる。  <b>活用を意識した学習活動</b>  <b>物事を関連付けたり、整理したりしながら課題に取り組む学習活動</b>  エーメールと「僕」の人物像を整理することで、「僕」が盗みを犯してしまった遠因を考えます。小説を読む際には、人物像を把握したり、比較したりすることが大切であることを学習します。
	3 エーメール、「僕」それぞれの人物像を発表する。	・エーメールの人物像は、「僕」から見た主観的なものなので、それを別の面から見られるようにする。 ・エーメールと「僕」を対比することで、「僕」がエーメールに対して屈折した感情を持つようになったことを把握させる。
	4 見つけた表現からどのような感じを受けるか、発表し合う。	・一面的に見てしまいがちな人物像を、多面的に評価できるよう、幅広く意見交換させる。
終 末 5 分	5 学習の感想を交流する。  6 次時の学習内容を確認する。	・お互いの感想を交流し、自分の学習の成果を実感させる。

## 6 おわりに

指導展開例は、「活用を意識した授業」をどのように作っていけばよいのか、授業者のイメージづくりを支援するものです。今後、当センターのWebページに、指導展開例集として掲載する予定です。ご活用下さい。